

私は秋田市の県第2庁舎内にあるあきた企業活性化センターが進めていた専門家派遣事業の専門家として登録されています。この事業で協力させてもらったのが、同市の企業「ドラグーン」が平成29(2017)年に始めた「ご当地レンタカー」の内装です。

秋田県を訪れる観光客のために、高級レンタカーの事業を始めるということでした。車の内装には秋田の伝統工芸である川連塗や樺細工、秋田八丈を使う構想でした。

私は秋田八丈担当です。座席や天井に使いたいとのことでしたが、人が座ってこされる部分には使いたくないです。そこで皮革と秋田八丈を組み合わせた

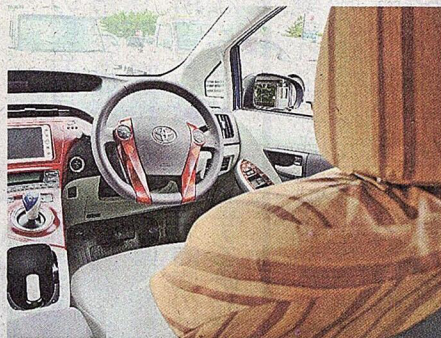
シリーズ

時代を語る

猿田 由美子 ③

レンタカーの内装も

座席カバーに秋田八丈を使ったレンタカーの車内



座席カバーを作りました。

出来栄はすごくよかったのですが、天井に張った部分はどうも、座席カバーは直射日光が当たって1年足らずで色あせてしまい、残念でした。でもドラグーンの鎌田学社長との交流が、後に「現代の名工」に選ばれるきっかけになったんです。センターの事業ではありませんが、秋田市のNPO法人「こはぐ」が令和元(2019)

年に始めた活動のお手伝いもしています。流産や死産、新生児死の赤ちゃんのために小さなひつぎや骨つばを作りたいということでした。

私はひつぎや骨つばを包む風呂敷や袋の製作を依頼されました。風呂敷はひつぎを包んだ時、前の部分にハートや涙の形の一部がくるようにしました。

骨袋の方はお盆に見かけたホオズキの実がヒントになりました。ホオズキの実の外側の袋の部分を開くと、中の実が赤ちゃんに見えたんです。そこで巾着袋形の袋の口のひもを引くと花びらのようになって、開きかけのホオズキの実に見えるデザインを考えました。

風呂敷も骨袋も淡い黄色のガゼ生地で作られています。小さいのでかえって大変なんです。風呂敷のデザインを見た女性から「涙が止まらなかった」と言われたことがあります。